

呉と太平洋戦争

呉と太平洋戦争

3. 原爆と終戦 昭和20(1945)年

昭和20(1945)年 ① 月 ② 日、広島に原子爆弾が投下され、呉からもキノコ雲が確認されました。

海軍技術大尉 手記の一節。
窓辺から見た光景について記した西田亀久夫
原子爆弾投下直後呉市吉浦の砲台実験部の

それは淡いピンク色を帯びたあでやかな
色で朝日を反射して太く逞しく突っ立ち、
内からめくれるようにキノコ状に広がりがり、
驚くべき高速で蒼天に突き上がりつつ
あった。



▲呉市吉浦町から撮影されたキノコ雲

原子爆弾投下直後、いち早く呉鎮守府から調査団が派遣され、国内で初めて原子爆弾であることをつきとめました。さらに、呉海兵団や呉海軍病院などから組織した救援隊・救護隊が派遣されました。また、多くの呉市民も広島市に入り、救援・救護活動を行いました。

そして、8月9日には ③ に原子爆弾が投下されました。日本はポツダム宣言を受け入れ、8月15日に終戦を迎えます。

4. 戦後の混乱と再建

空襲などにより荒れ果てた呉市は戦後、平和産業港湾都市としての復興をめざします。そして造船のまちとして、科学・技術・造船・文化などいろいろな方面で発展していきました。

占領直後の呉市

海軍工廠の施設を利用して、市民は艦艇の引き揚げ・兵器の解体作業などの仕事をしたり、占領軍の労働者として生計を立てていました。



▲闇市のにぎわう様子 (昭和21年)



▲三角兵舎と呼ばれる応急住宅 (昭和21年)

生活に必要な物資が不足し、配給だけではまかなえず、④※で買い物をして手に入れていました。

※公には認められていない市場のこと。不足していた物資が、基準価格より高く売られていました。

特に ⑤ 不足は深刻で、配給も最大28日遅れたんじゃ。



市民は、野菜の葉・茎・根や果物の皮・種子までも食べてしのいでいたんだって。

